



機上からチヨモパマリ峰(手前中央)6,109mとチベットの山々 (05年11月)

カトマンズ今日この頃

ビスターレ・ジャノス

第8号

2007年6月

6月第一週からモンスーンに入ったようだ。今年は雨が遅れずにすんだ。東テライの農民の友人によると、彼の地域では順調に田植えをしているとのことである。ところが、カトマンズ周辺の村では水不足である。バングラデシュではすでに大雨による被害が出ているが、インドのニューデリー等西部内陸地方では猛暑が続いている。

1. カトマンズつれづれ

《Buddha Boy》

5月2日は仏誕節であった。Buddha Boy'の話である。2005年11月に、カトマンズの真南のインド国境のバラ郡ラタナプリ村で、釈尊の生まれ代わりという16歳の少年が6ヶ月間も飲まず食わずの座禅修行をしていると話題になり、仏教信者のみならず多くの人が参詣に訪れた。少年の額からは光が発せられているともいう。ジャングルの村は一変してバザールに変貌した。この少年は1989年生まれ

のラム・バハドゥル・ボンジョンで、出家後はパルデン・ドルジと呼ばれている。母親の名は、釈尊の生母摩耶夫人と同じマヤ・デビ（タマン）である。パルデン少年はインドとの国境の村でソム・バハドゥル・ラマのもとで修行に入り、ルンビニに続いてインドのウッタールアンチャル州のデヘラドゥンで修行した後帰村し、2005年5月に村のピーパル樹の下で座禅を始めたといわれている。

さて、人間が飲まず食わずに6ヶ月も生きられるのだろうか。普通の人間なら3~4日で脱水症状をおこして死亡するといわれている。このような下司の勤練りをするのは筆者ばかりでない。ルンビニ開発基金や王立科学技術アカデミーは調査団を送った。政府の科学技術省も調査団の派遣を検討している。しかしながらいまだに何も解明されていない。夕の5時から翌朝5時まで彼の回りは囲いで隠されてしまうので、この間に食べているのだと想像されている。後に彼は、修業期間中は菓草を食べているといっている。

さて、この少年がふたたび話題になったのが、昨年3月11日に突如として行方不明になってからである。誘拐説、隠遁説等新聞紙上ににぎわせた。19日に3km離れた場所で仏教団体幹部たちが会った際に「この場所は修行するにふさわしい平和的環境にない。……6年したら戻るので心配しないで」といっていたという。そして、護身用の短剣を持ったパルデン少年は12月25日に数人の狩人たちによって発見された。彼の修行の場はふたたび信仰目的の人や興味本位の人たちによって取り囲まれることになった。仏陀少年への喜捨が、マオイストに流れたとか少年の支援団体の銀行口座が当局によって凍結されたとかの生臭い話がついて回るのが如何にもネパールらしい。

釈尊生誕の地がルンビニであることをご存知の方は多いと思う。ルンビニはネパールの中部テライ地方のインド国境に接して位置する。釈迦族の支配する国（東西80km、南北60km）の浄飯王（じょうぼんのう）の妃摩耶夫人（まやぶにん）が出産のため隣のコーリヤ国に里帰りをする途中休息したルンビニで、夫人の右脇を破って誕生されたのである。諸説あるが、紀元前566年4月8日のことであった。日本では誕生日を4月8日は灌仏会（花祭り）として祝う。

生誕の地ルンビニ、35歳で悟りを開いて仏陀となられた成道の地ブッダガヤ、最初に教えを説かれた初転法輪の地サルナート、そして入滅された涅槃の地クシナガラはウッタープラデシュ州にある。最後の旅がすでにコーサラ国に滅ぼされてしまった釈迦族のカピラ城に向けたものであるという。何をして聖者を生まれ故郷に向かわせたのか、筆者のごとき凡夫には計り知れないものがある。釈尊の説くところによって、入滅後在家信者による聖地巡礼が行われるようになる。

ルンビニの園はまた世界遺産に指定されている。多くの国の仏教団がそれぞれの寺を立て自国の仏教徒を迎えている。1993年から10年にわたって全日本仏教協会が遺跡発掘調査をしたが、95年に上坂悟氏がマヤ堂中心部直下から「標石」を発見した。アショカ王が石柱建設の際に釈尊の生誕地として埋め置かれたものと推定されている。また、聖地の整備は丹下健三氏のマスタープランに基づいて長年かけて行われている。



Buddha Boy Richard Josephson



Lumbini Wes Olson

2. ネパールこんなこと

《ごみと水と公共事業》

首都圏の街々が年々汚くなっていく。今月から自動車通勤をやめて、事務所まで25分歩くことにした。経費節減のためであるが、健康保持にも寄与することを期待している。街の様子が五感で分かるようになった。まず、表通りに積み上げられたごみの山だが、見た目以上に臭気に耐えられない。写真のごとく毎朝収集車が集めに来る。それまでは生ごみを含めて路上に積み上げており、収集後もごみの後が歴然として不衛生極まりない。20年前にはドイツの援助でごみのバケツと収集車が配備され、収集・処分システムが曲がりなりにもつくられた。このシステムが壊れたあと、日本の援助で新たな計画がつくられ、インドとともに収集車が供与されたが、バケツは配備されなかった。カースト制の分業の悪弊かもしれない。私は捨てる人であって、掃除をする人ではないというのか。

都市の病理には、ごみ、上下水、大気汚染等があるが、すべてそろっているのがこの国の首都圏である。筆者は6月に住居を郊外から市街地に移した。郊外の家は、日本の援助で水源開発した幹線導水管沿いにあったことから、質量とも申し分のない環境であった。引っ越した家には週2日の時間給水で地下タンクに貯留するのだが、とても足りない。井戸があるが濁っていて飲むどころか調理にも使う気になれない。20リットル入り150円のミネラルウォーターを買っている。これも飲料水として合格ではないようだが、今のところ健康に支障がないので使っている。あるいは昨今大繁盛のタンクローリーの給水を注文することになる。

自宅に水道を引いていない人々は、右下写真の伝統的な水場である「ダラ」から水を汲んでいく。パタンのような伝統的な街並みが残っているところにはダラはいたるところにあるのだが、住宅の増加や地震によって地下水脈が涸れたところが多く見られる。筆者の家の近くの写真のものは依然として水量は豊富であり、霊験あらたかな水とのことだが、見た目は濁っている。井戸と同様に中世にはすでに整備された下水道からの汚水がまぎれていることも想像される。

さて、公共事業であるが、今年は予算の執行が大幅に遅れているとの新聞報道である。そのためか、首都圏では5月後半になって道路改修をはじめとてあちらこちらで工事が始まった。7月中旬から新会計年度である。6月初旬からモンスーン期になる。雨の中の道路工事は品質管理上問題があることは道路局も承知している。早くいたむのである。金の無駄遣いだが、役人にとってはプロジェクトを実行することで彼らにとって“いいこと”がある。

アジア開発銀行主導で日本政府も資金供与しているメラムチ給水プロジェクトがまた止まってしまった。10年も時間をかけて作業用道路すら開通していない。このたび止まったのは、マオイストのヤミ公共事業大臣が融資条件の一つである水道事業の民営化で選定された英国の事業者との契約を白紙にしようとしたことである。これまで数回にわたって入札をやり直している。さすがのアジア開発も堪忍袋の緒が切れた。これ以上借款期限の延長をしない、後発途上国向けの基金を供与しないと通告した。

では、なぜマオイスト大臣が契約を拒否したのであろうか。そもそも、なぜマオイストがこの大臣ポストにこだわったのか。公共事業省は、10年に一度の大プロジェクトであるメラムチ給水や、公共事業予算が多い道路局の所管官庁である。ここの大臣は他省よりおいしい思いができるのだとは知己のジャーナリストの話である。「マオイストよお前もか」などと野暮に憤る国民もいない。武器を手に企業や村人から政治寄金と称する“ゆすり”を繰り返してきた同党に信頼を寄せる国民が少ないだけの話である。とはいえ国民にも目覚めてもらわなければならない。公共事業向けの開発予算は全予算の三分之一を占め、そのうち9割が外国からの借款や無償資金協力である。外国援助によって権力者やそれに連なる人の懐を肥やす仕組みである。どこかの国でも汚職や談合が絶えないようだ。



パタンの路上ゴミ捨場と回収者



伝統水場のダラ

3. ネパールのうごき (2007 年 5 月)

《政治》

マオイスト、テライ地方選出議員の議事進行妨害により 40 日以上国会が空転した。26 本もの重要法案が棚上げになっている。また、内閣も閣議がスムーズに開かれておらず、行政の停滞が著しい。制憲議会選挙も 6 月実施は不可能であるが、いつまで延期するのかははっきりしない。選挙はできるだけ遅らせるのが望ましい現職の議員心理がある。また、政党にとっても選挙準備はできていないし、マオイストが相変わらず暴食的手法を行使している中での選挙は避けたい。議会が始まって 4 ヶ月余り、マオイストを含めた 8 党内閣組閣から 2 ヶ月、まだまだ混乱が起こるのであろう。

《経済》

中銀の経済月報(今期 8 ヶ月目)を概観する。マネーサプライ (M2) は 11.4%増、国内信用も 8.7%増といずれも国内資産の拡大を受けて伸びている。短期金利は加重平均銀行間で 1.39%と前年の 2.84 から低下している。消費者物価指数は 6.2% (前年同期 7.7%) で、テライ地方のストライキの影響を受けて生鮮食品の値上がり影響している。卸売物価指数は 12.2% (前年同期 6.2%) 上昇しているが、農産物が 19.9%のほか国内生産建設資材の値上がりが大きい。外為レートは 2007 年 3 月で 2006 年 7 月から 5.1%のルピー高ドル安である。

《社会》

ドルパ郡で冬虫夏草採取の 16 人の村人が天候の急変によって遭難した。いずれも地元の人たちであるが、2 日間の降雪に対処できなかったのであろう。軍のヘリコプターの救助出動も珍しいことだが、僻地にも通信網が広がったことも驚きであった。ちなみに、冬虫夏草はマオイストの財源としてチベットに輸出されているとのことである。

《経済協力・NGO》

メラムチ給水プロジェクトで、アジア開銀がどこまで柔軟に対処するか、またマオイストの国際社会へのデビューが飾れるか興味深い。

《今月の主な出来事》

政治	
1 日	ネパール・サドババナ党 (アナンディデビ派) とマデシ人民主権フォーラムが共闘
2 日	米国政府はインドがプラチャンダ議長の訪印をきっかけに評価を変えたと発表
5 日	マハラ情報通信相 (マオイスト) は共和制宣言が制憲議会選挙の前提と発言 マオイスト人民軍副参謀長が議会が共和制宣言をしない場合は街頭行動に出ると発言 政府は非アーリア民族グループと協議
9 日	マオイスト傘下の若年共産リーグ (YCL) とタルー国家解放戦線 (TNLF) が事務所放火 マオイストはゴラヒ郡の農地改革事務所に放火 マオイストとテライ選出議員の議事妨害により議会が長期間開かれず
11 日	マオイストと統一民主共和フロントが合同
12 日	国連安保理はマオイストに対し少年兵を復員させるよう促す
13 日	マオイストは議会に 150 万人の署名とともに共和制宣言の法案を提出 コイララ首相は制憲議会選挙で女性に 33%の議席を割当てるとの旨表明
14 日	コイララ首相は共和制宣言につき国王の権限が 100%喪失した時点で自動的にと発言
15 日	インド共産党マオイストはネパールマオイストに民主議会から脱退するよう促す
17 日	マハラ情報通信相 (マオイスト) は強制徴用した土地を選挙前に返還しないと発表
18 日	コイララ首相はバッタライ前首相にネパール会議派と会議派 (民主) の合併調停依頼 ネパール統一共産党総書記はマオイスト兵士の国軍への吸収を示唆
20 日	政府委員会は営舎収容のマオイスト兵士に月額 3 千ルピーの日当支給を決定
26 日	8 党は 40 日にわたる議会空転から再開に踏み出す合意
28 日	ヤミ公共事業相は省内高級人事に着手、官僚から批判も

経済	
1日	ネパール商工会議所連合会 (FNCCI) ダカル会長に脱税容疑で逮捕状、不在で逮捕できず メデーでネパール初の労組統一宣言
2日	コイララ首相は石油製品のインドの代替輸入国として中国を検討と表明
3日	各政党は石油製品値上げに反対、石油公社の逆ザヤ問題未解決、100億ルピー負債
4日	パシュミナ製品開発委員会 (PPDC) は新柄 150 を発表 最高裁はアマティヤグループに 30 億ルピーの借入金返済を命ずる カルキ水資源大臣は 10 年間で合計 5,000MW の発電所建設を発表
5日	4月の観光客到着数が前年比 78.8%増、中国、韓国が激増
6日	ヤミ公共事業相は英社との水道公社の民営化の契約見直しを表明
7日	最大輸出品目の既製服対米輸出が引き続き減少
9日	カルキ水資源大臣はアルン 3 水力発電計画の開発権をまもなく民間会社に付与と発表 前期の海外出稼ぎ送金が急増、GDP の 16.8%に
10日	中銀が経済月報発表、8ヶ月の卸売物価指数が 12.2%上昇 印石油公社が燃料(主にガソリン)の供給を 40%削減、未払い 50 億ルピー 家内工業連合会の婦人部会は銀行に対し貸出金利を 5%に下げよう要求
11日	ネパール旅行代理店協会 (NAATA) がヒマラヤ旅行見本市を開催
14日	政府は 10 年間の内戦でマオイストが政府施設 51 億ルピーを損壊と発表
15日	政府の借入金返済が 4 ヶ月で 118 億ルピーに、230 億ルピー予算化
16日	首都圏の 60%の乳製品の品質が基準を満たさず
17日	街頭の屋台飲食店が急増、一日の売上が 1 万ルピー以上に
20日	ジャバ郡でひまわり栽培が拡大、食用油用 情報通信省は 203 の FM 放送局を認可、68 が稼動中
22日	小麦の生産量が 8.68%増収、穀物全体では 4.28%減収、野菜は 6.3%増
23日	コーヒー豆の輸出が 17 トンに増加、生産量の 70%が輸出へ
25日	前期の政府系企業 (21 公社) の累積赤字が 451 億ルピーに
28日	クレカニ貯水池の水位が低下、1 週間分の発電レベルに

社会	
1日	バンケ郡でマオイストが警察署を襲撃
2日	各地で 2551 回目の仏誕祭が催される
3日	バルディア郡でマオイスト系 YCL と警察部隊が対峙、外出禁止令発令 ムスタン郡で古代洞窟絵画が発見される
4日	セティ県病院の医師が遺族に暴行される、抗議した医師団が診療拒否 マオイスト系タルー国家解放フロントが極西部 5 郡でゼネスト 王族の電気料金未払いが 33 百万ルピーに、内王宮が 24 百万ルピー
6日	ヌワコット郡で上位カーストがカミ (鍛冶屋：指定カースト) の村内自由通行を認めず
9日	ダン郡でマオイストと警察が衝突 50 人ケガ
12日	ナワルパラシ郡プラガティナガール村の 2,400 戸にトイレ設置、学生と NGO マルワリ実業家を目標に営利誘拐、過去 4 ヶ月に首都圏で 28 ケース
15日	ヘタウダ地方道路事務所は今雨季のトリブバンハイウエーの通行は不可能と発表 首都圏の新たな建築基準が発表される マオイスト系の YCL、婦人組織はカンチャンプール郡事務所を襲撃、知事に暴力
16日	アパ・シェルパが 17 回目のエベレスト登頂、記録更新 タプレジュン郡で地震
17日	マオイスト系の教員、学生組織が全国ゼネスト、780 万人の生徒に影響
20日	ネパール航空職員が乗客の UAE 不法入国を組織的に支援? ドラカ郡のビメシュワール寺院の像が発汗、不吉な出来事が?
25日	ジャバ郡で YCL が米国大使の車両に投石

28日	考古局は過去10年で138体のアンティーク像が盗難にあったと発表
29日	マオイスト系教員、学生組織のスト終結、学校が12日ぶりに再開 柳沢カツスケさんが71歳でエベレスト登頂、最年長記録更新 ドルパ郡で天候急変のため16人の冬虫夏草採取村人が遭難、救助隊派遣

経済協力・NGO	
9日	情報通信省は農村部のIT化事業のJFICT9068を発表、アジア開銀、UNSCAPが支援
9日	国際金融公社(IFC)はネパール工商銀行に2百万ドル融資 ヤミ公共相は水道事業民営化のための英社との契約を無効にすると発表
13日	アジア開銀融資の道路計画のコンサルタント選定で不正
14日	インドは内務省に80台の車両を無償供与で合意
18日	アジア開銀は水道民営化に関しメラムチ給水計画の融資期限を延長しないと通告
21日	IFCはカトマンズ銀行に2百万ドル融資
28日	フィンランド政府は平和信託基金に2.6億ルピーを供与
30日	世銀は財務部門改善計画で中銀の報告書の遅れにより支払いを停止すると発表

4. 政策や法令について

今回はお休みします。

5. CDの紹介

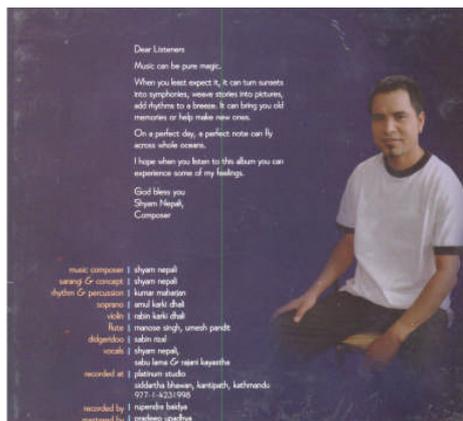
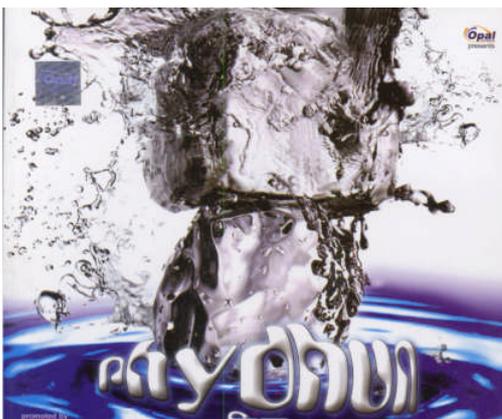
《Rhythhun - Sham Nepali》

作曲：Sham Nepali

演奏：Sham Nepali (sarangi/concept), Kumar Maharjan (rhythm/percussion) 他

録音：2005年

発行：Opal International



シャム・ネパリをご存知だろうか。ネパール随一のサラング奏者である。サラングという楽器は座ってはひざに乗せ、立っては首からつるして弓で弾く四弦の楽器である。大きさによって音域は異なるがバイオリンをイメージしていただければいい。ガイネという吟遊詩人のカーストが用いる。シャムの祖父も吟遊詩人であり、父もサラング演奏者である。シャムは、ネパールの古典音楽、民謡はもちろんこのCDのように自ら作曲して演奏する。演目は優に2,000曲を超えるという。

昨年の日ネ外交樹立50周年の式典では、日本人の尺八、笙、琴の若手演奏家と競演した。ネパール側は彼のほかに横笛とタブラ（太鼓）であった。日本の古典楽器がこれほどモダンな音楽スタイルで演奏したのにも感激したが、ネパールの古典楽器とのハーモニーが聴衆を魅了した。このコンサート

が録音されていないのがまことに残念である。また、この紙面でも紹介した“Garden of Dream”の企画でも日本の二胡の名手西村さんと競演したが、聴衆のみならず二人が掛け合いを楽しんでいるのがとても印象に残った。

このCDはシャムの作曲による古典を下敷きにした現代音楽とっていいだろう。ネパールの単調な民謡やインドの影響を受けたポップスに聞き飽きた方にこのCDをお聞きになることをおすすめする。音楽に無知な筆者でもシャムの才能を賞賛せずにはいられない。

6. NPO「ヒマラヤの大地と風」の設立と参加のおすすめについて

NPOの活動への参加をお誘いします。モンタディオコンサルティングを立ち上げて2年になろうとしています。この間、カトマンズに事務所を構えてコミュニティ開発の案件形成や日本企業誘致を試みてきました。多くの皆様のご支援をいただきながら所期の目的にむかって少しずつ形ができてきましたが、今般非営利特別活動法人を設立してさらに活動を拡大することとしました。

NPOのミッション、目的、基本方針、活動分野は別添に掲載しましたのでご参照ください。定款（案）要旨は紙面の都合上次号以下に掲載します。当面の「NPO法」上の活動分野は、5. 環境保全を図る活動、9. 国際協力の活動、17. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動、とします。

趣旨にご賛同いただき、活動をともしにいただける方はメールで会員になっていただく旨をお申し出ください。また本邦における本部または事務局を引き受けてくださる篤志家を募集します。ご協力をお願いします。

7. 一村一品アンテナショップ

日本政府は、途上国の村おこしを支援するために、ネパールでも「一村一品」運動に協力しています。弊社はネパール商工会議所連合会（FNCCI）に協力して産品の発掘ならびに市場調査を始めました。日本市場向けの産品発掘は着手してみると多くは見当たりませんが、とりあえず手ごろな小品からはじめています。カトマンズの弊事務所に日本人観光客向けアンテナショップ1号店を開店しました。現在以下のものを販売しています。（+印は予定）今後は、ネパール固有のハーブ（薬草を含む）や伝統手工芸品も発掘する予定です。

- * 手もみ高級紅茶（ヒレ村）
- + ハーブティ“バルー”（ツクチェ村）
- * ハーブティ“ヒマラヤンローズ”（タンボチェ村）
- * ニガそば茶（ジャルコット村）・スノーティ（ジュンベシ村）ミックス
- * ベール濃縮ジュース（テライ地方）
- + ラブシチャツネ（サガ村）
- + 食用菜種油（コカナ村）
- + エゴマ油（パルピン村）
- * そば粉（ツクチェ村）
- * ヒマラヤ絹“セリシン洗顔ミトン”（ルブ村）
- * ヒマラヤ天然香（タンボチェ村）

モンタディオコンサルティング
Monta Dio Consulting Japan

代表 菅沼一夫